

へきけんニュース

ホームページ http://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/
メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp
☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



活気ある令和2年度北海道教育大学旭川校 へき地校体験実習報告会を開催しました！

北海道教育大学旭川校へき地教育アドバイザー 田中 和敏

【令和2年度のへき地校体験実習報告会を実施】

12月19日(土)に、令和2年度のへき地校体験実習報告会を実施しました。

本年度は、25校に4年生9名、2年生50名、計59名の実習生がお世話になりました。当日は、東神楽町立忠栄小学校、中富良野町立宇文小学校、名寄市立中名寄小学校、中頓別町立中頓別中学校、占冠村立占冠中学校の小学校3校、中学校2校による発表を行いました。また、宇文小学校、中頓別中学校、忠栄小学校の3校は、本年度初めて実習生を受け入れていただいた学校です。さらに、忠栄小学校は、令和3年3月で閉校となる学校でもありました。



北海道教育大学旭川校



へき地体験実習発表の様子

▼ R2へき地体験実習に参加した旭川校学生数

学年	参加数
2年生	50名
4年生	9名

受入校 25校

■へき地校体験実習生の発表から

発表を通して実習を振り返り確認し合った事項、各実習校で共通していた事項、実習校の特徴的な事項などについて、発表用のスライドとともに次のようにまとめてみました。

希望した理由

楽しそう

へき地校について知りたい



小学校実習の前に一回実習しておきたい

貴重な経験ができそう

占冠村立占冠中学校のスライドから

【実習参加の動機】

- ◎ 「へき地教育の実際を体験したい」 「都市部出身でへき地を全く知らないから」「へき地出身でへき地で教師をしたいから」など、へき地教育への興味・関心からの希望は、どの実習校にも共通していた。
- ◎ 「次年度の本実習前に教育現場を体験しておきたい」という理由も多く聞かれた。
- ◎ 「先輩から勧められた」「自分が教師に向いているのか確かめたい」などといった動機もあった。

【特色ある教育活動】

- ◎ いずれの実習校でも、学校・児童生徒・地域の特性を生かした教育活動が行われていた。
- ◎ 特に、「はだしの学校」「町内3校での集合学習」「交換留学制度」「道外での平和学習」などは、特徴的であり、小規模校だからこそできる教育活動がみられた。
- ◎ 始業前の時間や休み時間を利用し、学力や体力向上に取り組む学校もあった。

宇文小学校について

・全校体育



縄跳びチャレンジ!

みんなでバスレク!

・遠足も特徴的!?



スライムづくり!

中富良野町立宇文小学校のスライドから

5. 小規模学習

生徒の人数に対して先生の数が多い!!



チャレンジタイム、T T



中頓別町立中頓別中学校のスライドから

【複式・小規模学級の授業の特色を生かす発想】

- ◎ 複式学級では、間接指導によって学習に対する主体性の向上が見られた。
- ◎ 中学校では、複数教師による授業も行われていた。
- ◎ 少人数であるがゆえに、児童生徒一人一人に応じた授業や全員が活躍する場のある授業が行われていた。
- ◎ 「体育の授業などでは、見本となるものが少なく、イメージが作りにくい。」といったデメリットもあった。

5 教壇実習について

○児童の実態に合わせた授業づくり

低学年→集中力がない...



児童と視線を合わせる！



声掛けを増やす！



1年生(2人)2年生(1人)



目に見えてわかるようにする！

東神楽町立忠栄小学校のスライドから

【教壇実習】

- ◎低学年では、目を合わせて話をするなど、授業に集中させる工夫が必要であった。
- ◎複式授業は、時間配分や臨機応変な対応など、見ている以上の難しさがあった。
- ◎学年別指導では、2つの学年の授業の流れを一つに合わせて指導案を作った。わたり、ずらしをどの部分に位置付けるかが難しかった。

【実習を終えて】

- ◎へき地・複式・小規模校における具体的な授業づくりについて体験できた。
- ◎子ども達との関わり方・距離感について、体験を通して考えることができた。
- ◎自身の将来について、より具体的に考えるきっかけとなった。
- ◎教職の素晴らしさ、やりがいに気づくことができた。
- ◎大学での授業に対する向き合い方が変わった。

実習を通して学んだこと

間接指導の工夫がへき地の強みになる

子ども目線になって考える

子どもの「できた」を見逃さないようにする

名寄市立中名寄小学校のスライドから

報告会参加者の感想から — 教育の原点を感じたへき地校体験実習 —

参加者の感想をみると、本報告会では、自身の体験との共通点や、実習校によって多様な考え方・取組がなされていることなどの交流がなされ、実習の体験をより深い学びにすることが感じられます。

【参加者の感想】

- ◎今回の実習を通して、自分はもちろん他の実習生も「教育の原点」に触れたと感じた。子どものための教育、その方法は数多くある。へき地は、人数が少ないので子どもに合わせた工夫、一人一人への対応というものが行きやすい。そのような点が「教育の原点」なのだろうと感じた。
- ◎自分たちが実習した学校とは全く違う特徴であったり、子どもたちの性格などがあり、その学校によってルールも違っていた。どこの学校でも共通していたことは、子ども第一であるということであった。子どものことを第一に考え、行事であったり授業であったりを考えて行く。小規模校ならではの子どもとの関わり方、教師との関係も大規模校とは全く違っていると感じた。

◎自分が着眼しなかった観点やその学校独自の魅力や良さがあり、より一層興味・関心を抱いた。どの学校も共通して取り組んでいる工夫もあれば、私の実習校でしか見られない工夫もあった。これらを踏まえて今後学んでいくことで、将来へき地・小規模校に勤務した時に、その学校のためにできることが増えると思う。私は、へき地に勤務したいと考えているので、今回の経験を忘れず、高い意識を持ち続けたい。

2学期始めで慌ただしい中、さらに新型コロナウイルスの感染拡大が心配される中、実習生を温かく受け入れ、丁寧に指導いただいた実習校の皆様、各市町村教育委員会の皆様のご協力・ご支援に心から感謝申し上げます、へき地校体験実習報告会の報告といたします。



報告会での参加者の様子

令和2年度 北海道教育大学 へき地体験実習協力校

29市町村 52校 実習生合計 122名

12/19 旭川校へき地校
体験実習報告会での発表校

橙字は夏期11校
札幌校2・4年生対象

緑字は夏期25校
旭川校2・4年生対象

士別市立上士別小学校
士別市立糸魚小学校
士別市立多寄小学校
士別市立上士別中学校

